瀬戸内市の中世城館跡

砥石城跡　東から　手前に砥石城主郭、奥に出丸が見える。

瀬戸内市域が含まれる備前国東部は、吉井川が南北に流れ、山陽道が東西に通るという、交通・流通の要衝でした。その結節点にあたる備前福岡（長船町福岡付近）は、経済・政治の中心地として発展し、中世後期には備前国守護の政治的・軍事的拠点となる守護所も置かれました。戦国時代（15世紀後半～16世紀）に入ると、備前国ではまず福岡を争奪する合戦が行われました。

室町時代には、主に赤松氏が備前国守護をつとめていましたが、戦国時代に入ると赤松氏と山名氏が抗争をくりかえし、やがて備前国守護代をつとめていた浦上氏が勢力を強め、備前国を支配するようになります。さらに、浦上氏に仕えていた宇喜多氏は、直家の時代に大きく勢力を拡大し、備前国・美作国の全域と備中国の一部を支配する戦国大名となっていきました。

そのような中、防御施設を備えた軍事拠点として、各地に城が築かれました。ここでは、戦国時代のものを中心に、瀬戸内市内の城館跡を紹介します。

公益財団法人　瀬戸内市歴史まちづくり財団

瀬戸内市の中世城館跡一覧

No.	城館跡名	所在地
1	長船城跡	瀬戸内市長船町長船
2	堀城跡	瀬戸内市長船町磯上
3	丸山城跡	瀬戸内市長船町服部
4	油杉城跡	瀬戸内市長船町磯上
5	福岡奥之城跡	瀬戸内市長船町福岡
6	高松山城跡	瀬戸内市長船町飯井
7	虫明城跡	瀬戸内市邑久町虫明
8	智満城跡	瀬戸内市邑久町福中
9	高山城跡	瀬戸内市長船町西須恵
10	尾張城跡	瀬戸内市邑久町尾張
11	佐井田城跡	瀬戸内市邑久町本庄・尻海
12	光明寺城跡	瀬戸内市邑久町大富
13	今木城跡	瀬戸内市邑久町向山
14	向山城跡	瀬戸内市邑久町北島
15	上山田城跡	瀬戸内市邑久町上山田
16	砥石城跡	瀬戸内市邑久町豊原・東谷
17	高取山城跡	瀬戸内市邑久町東谷・岡山市東区長沼

その他の城

『改訂邑久郡史上巻』や江戸時代の地誌類などに記載があるもののうち、現地で城館遺構の確認ができていないもの。

牛窓町地域

石原城	瀬戸内市牛窓町牛窓
牛窓城	瀬戸内市牛窓町牛窓
紺浦城	瀬戸内市牛窓町牛窓
天神山城	瀬戸内市牛窓町牛窓
鹿忍城	瀬戸内市牛窓町鹿忍

邑久町地域

殿山城	瀬戸内市邑久町上山田
殿山城	瀬戸内市邑久町佐井田
島広山城	瀬戸内市邑久町豊原・東谷
高尾城	瀬戸内市邑久町東谷
福谷城	瀬戸内市邑久町福谷
福中城	瀬戸内市邑久町福中
上城	瀬戸内市邑久町福元
白谷城	瀬戸内市邑久町虫明

瀬戸内市の中世城館跡位置図

備前市
瀬戸内市
2堀城跡
4油杉城跡
6高松山城跡
7虫明城跡
9高山城跡
11佐井田城跡
虫明湾
長島
木島
錦海湾
牛窓港
牛窓支所
前島
青島
黒島
黄島
瀬戸内海
0 1 2km
凡 例
国道
主要地方道
県道
岡山ブルーライン
鉄道
城館跡

1 長船城跡（瀬戸内市長船町長船）

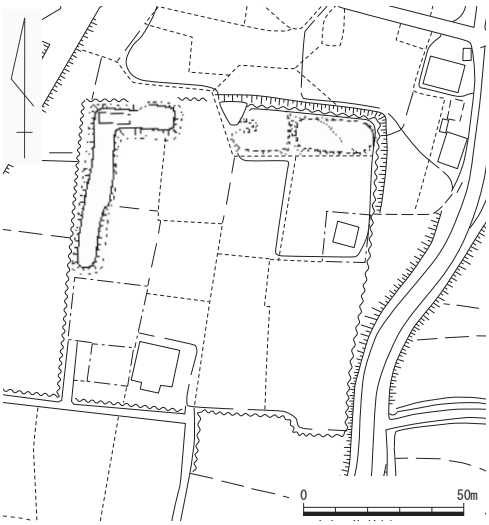
吉井川左岸の平野部に位置する高い土塁が残存する居館跡。大きく円弧を描く堀（河道）が存在したと推測されます。江戸時代の地誌類では、城主として長船越中、長船左衛門尉兼光、小笠原金光、長船右京亮、長船紀伊守、松田孫次郎などが伝えられています。同所は伝兼光屋敷跡とも呼ばれ、「城ノ内」・「築地」の字名を残しています。

南から
左奥に見えるのは備前長船刀剣博物館

2 堀城跡（瀬戸内市長船町磯上）

約90m四方の規模をもつ居館跡であり、北・東・西辺には土塁が残存しています。特に西側と北側の土塁は残存状況が良好です。現状で幅７～８m、高さ約２mを測ります。また、築城当時は周囲を巡る堀が存在していたと推測され、北辺には土橋が取り付いていた可能性があります。本城は、江戸時代の地誌類に記載された、島村観阿弥が居城したという邑久郡磯上村の「屋舗跡」に比定されます。『改訂邑久郡史上巻』によると、堀城跡の北側にある湯次神社の棟札に「文明８（1476）年領主浦上則元と島村景貫によって（神社が）再建された」と書かれており、浦上氏の家臣であった島村氏との関わりがうかがえます。

北側の土塁



堀城跡縄張り図
（岡山県教育委員会 2020）

北側の堀

南側上空から

3 丸山城跡（瀬戸内市長船町服部）

丘陵頂部に曲輪を造成するが、後世の地形改変によって切岸は不明瞭です。また、南側尾根筋に長軸約10mの半円形の平坦面が２面存在します。江戸時代の地誌類では、天野左亮、虫明氏が居城したと伝えられています。

東から

頂部

4 油杉城跡（瀬戸内市長船町磯上）

単郭式の山城であり、主郭の周囲には帯曲輪と小曲輪を配置しますが、これらに伴う土塁や堀切はみられません。一方、主郭の北側縁辺には時期不明の低い石積がみられますが、その性格ははっきりとはわかりません。なお、主郭南側には直径8.5mの横穴式石室を主体部とする城山古墳が所在しています。本城は江戸時代の地誌類に記載された、城主不詳の「古城山」または「城墟」に比定されます。

主郭の北側の石積

油杉城跡縄張り図
（岡山県教育委員会 2020）

西から

5 福岡奥之城跡（瀬戸内市長船町福岡）

河川敷に高まりがあり、その狭い頂部は稲荷神社地です。頂部を取り囲む加工段などを確認できますが、その周囲を含めて後世の土地造成、あるいは天正16（1591）年の大洪水などで大きな地形改変があります。江戸時代の地誌類では、城主として赤松淡路守満弘、小鴨大和守、頓宮四郎左衛門、浦上紀三郎則国、浦上伯耆守基景、浦上豊前守などが伝えられています。

北西から

6 高松山城跡（瀬戸内市長船町飯井）

標高180mの山頂に位置し、頂部に広い平坦地があります。江戸時代以降の地形改変があります。江戸時代の地誌類では、城主として高取（鷹取）備前守が伝えられています。

南西から

7 虫明城跡（瀬戸内市邑久町虫明）

虫明湾北側の標高127mの通称城山の頂上にある山城です。金剛蔵王大権現を祀る眺望のよい頂部は平坦面になっており、本丸と呼ばれる中心郭に比定されますが、顕著な城郭形成はみられません。出丸と呼ばれる曲輪は、山頂から西側へ派生する馬の背状の尾根先端部にあります。江戸時代の地誌類では、城主として虫明蔵人、虫明四郎左衛門らが伝えられています。西に虫明湾、東に日生諸島から播磨灘の外洋を望む戦略上の格好の位置に立地します。一方で、城郭の単純さからみると、戦闘用の山城というよりは、戦闘時に村人を含め一時退避する機能をもった山城と推察されます。

南から

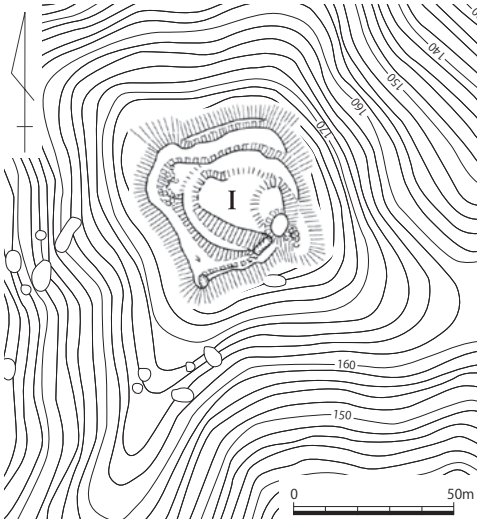
8 智満城跡（瀬戸内市邑久町福中）

山端部の奥部に主郭が築かれ、その西側に広い曲輪を配置し、さらに下段に地形に沿った細長い５か所の曲輪があります。それぞれの切岸は比較的急峻です。吉井川に近接しており、西方からの攻撃に対する防御の固めとしての機能を果たした城館と推測されます。江戸時代の地誌類には比定される城館跡は認められませんが、『改訂邑久郡史上巻』によると、智間氏と関係するものと考えられています。

西から

9 高山城跡（瀬戸内市長船町西須恵）

標高約180mの高山山頂部に立地します。山頂部からの見晴らしはよく、千町平野とこの平野の南を画する山塊に所在する砥石城跡を西に、備前市鶴海から千町平野に至る往還を北に見渡すことができます。東辺に約1mの櫓台状の高まりがある曲輪Ⅰ周囲に、二重の帯曲輪を配した輪郭式山城です。曲輪Ⅰ南辺には約1.5mの切岸が認められます。背後の山塊から主郭に至る斜面は非常に急峻で狭く、この尾根筋を意識すると思われる高さ約50cm～1mの土塁を、城域の南東辺に設けて守りを固めています。江戸時代の地誌類では城主として鳥山左馬允が伝えられています。



高山城跡縄張り図
（岡山県教育委員会 2020に加筆）

曲輪Ⅰ

土塁跡

山頂部から西側を望む

小豆島方面を望む

南西から

10 尾張城跡（瀬戸内市邑久町尾張）

城稲荷神社の周囲には、「城ノ内」・「城廻り」・「居屋敷」といった城館関連地名が確認でき、この周辺に真上から見ると方形の居館址が存在した可能性が考えられます。また、この範囲の南側には「堀ノ内」、西側には「堀内」・「堀」・「堀西」といった字名がみられます。一方、東側には「保止」・「保止前」・「保止東」・「居屋敷」といった字名がみられます。『邑久町史 考古編』によれば「保止」は古代～中世の所領単位の「保」を管理した責任者である「保司」に関わると推測しています。江戸時代の地誌類では、城主として鷲見越中、長瀬七郎らが伝えられています。

城稲荷神社　南東から

11 佐井田城跡（瀬戸内市邑久町本庄・尻海）

標高70mの山頂部と南側へ派生する尾根先端部にやや幅広の平坦地があります。中心郭等三つの郭で構成された山城のようです。由緒や城主についてはわかっていません。江戸時代の地誌類では、城主は不明または佐井七郎、河本宗本が伝えられています。地理的にこの辺りは千町平野から虫明港に抜ける交通の要衝にあたります。また、自然地形に近い構造上の特徴から、戦闘用の山城というよりは、戦闘時に村人が一時退避する機能をもった山城とも想定されます。

北から

12 光明寺城跡（瀬戸内市邑久町大富）

干田川左岸にある山塊東側の端部に位置する単郭式の山城と思われます。長さ80m、最大幅20数mを測りますが、土塁や堀切は確認できません。江戸時代の地誌類に記された隍や過去の現地調査で若干残存しているとする石垣も確認できず、築城当時の状況は不明です。江戸時代の地誌類では、城主として大富太郎幸範が伝えられています。

東から

13 今木城跡（瀬戸内市邑久町向山）

千町平野を眼下に一望する標高30mの低丘陵上（築地山）に立地し、東方への眺望に優れています。近年に大規模な削平を受け、城館遺構の様相は不明ですが、二郭以上からなる山城と考えられています。江戸時代の地誌類では、城主として今木太郎範秀、今木次郎範仲が伝えられています。「今木城」と名付けられた城の所在地は、江戸時代の地誌類や絵図、さらに各自治体史でも異なっています。

東から
右奥に見えるのは今城小学校

今木城跡碑

14 向山城跡（瀬戸内市邑久町北島）

標高40mの丘陵頂部平坦面南辺に高さ約１mの土塁がありますが、くわしいことはわかっていません。頂部平坦面から南側の斜面は、墓地造成による改変が顕著です。この地は「陣の山」という地名をのこしていますが、文献史料に記載はみられません。

南から

15 上山田城跡（瀬戸内市邑久町上山田）

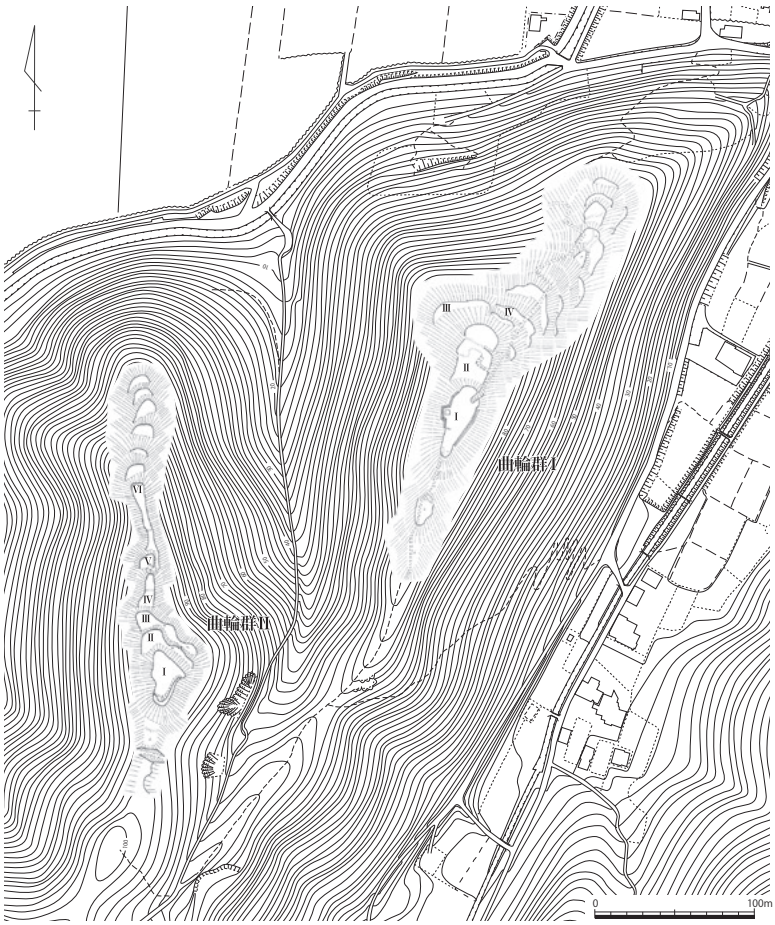
城山という小字が付けられた標高70mの尾根先端頂部にあり、千町平野の南東端から続く細長い平野部を南から見下ろします。この尾根の北側の山すそには、千町平野の東端から岡山市東区下阿知へと至る街道と、瀬戸内市牛窓町牛窓へと続く街道が合流しており、交通の要衝にあった城といえます。切岸が明瞭でない胴張り形の曲輪を頂部に配し、その南側の稜線に浅く狭い堀切があります。曲輪から北側に延びる尾根筋には、数面の曲輪を設けて守りを固めます。江戸時代の地誌類では上山田村に所在する古城山とのみ記載されており、由緒や城主はわかっていません。

北から

16 砥石城跡（瀬戸内市邑久町豊原・東谷）　市史跡

千町平野を眼下に一望する標高100mの砥石山と西側の尾根筋に立地する連郭式山城です。砥石山に立地する曲輪群Ⅰは砥石城、西側の尾根に立地する曲輪群Ⅱは砥石城出丸ないしは出城と呼ばれています。

曲輪群Ⅰは、長方形の曲輪Ⅰを砥石山頂部に造成し、主郭とします。この曲輪の東西両辺には、石垣が築かれています。西辺の石垣は、突出部より南側の石垣が野面積みで構築されています。曲輪Ⅰの北側には、高さ約７mの切岸を備えた曲輪Ⅱを配し、それを取り巻くように曲輪Ⅲ・Ⅳを設け、さらに下方には小曲輪を含みながら連続して曲輪を築き守りを固めています。一方、曲輪Ⅰの南側、笠松明現宮へと至る尾根続きは、地山中の巨石を切岸に取り込んだ曲輪Ⅴを配したのみで、その他の防御施設は認められません。ただし、この尾根続きは幅が狭く、その東西両側は急崖です。



砥石城跡縄張り図
（岡山県教育委員会 2020に加筆）

曲輪群Ⅱは、尾根筋最高所に東辺から南辺にかけて高さ約１m、幅約２mの土塁を築いた曲輪Ⅰを配置しています。曲輪Ⅰ北辺の切岸は高さ約２m、南辺の切岸は高さ約６mを測ります。曲輪Ⅰの北側を取り巻くように曲輪Ⅱ・Ⅲを築いています。曲輪Ⅲから北に向かって延びる幅

東から

曲輪Ⅰの石垣

約２mの尾根筋にも曲輪Ⅳ～曲輪Ⅵが設けられ、さらにこれらから北に下る尾根筋にも２～５mの切岸を備えた６面の腰曲輪を配しており、北方への防御意識の高さがうかがえます。一方、曲輪Ⅰから笠松明現宮へと至る尾根続きには、自然地形の平坦面南側に開削された幅約８m、深さ２m弱の堀切のみです。

宇喜多能家・興家・直家の居城として江戸時代の地誌類や軍記物に頻出しますが、同時代史料では確認できません。史料に現れる最初の城主は浦上則国で、『蔗軒日録』には、福岡合戦から１年後の文明17（1485）年に起こった山名・松田氏と赤松・浦上氏の争いに際して、赤松・浦上氏方に与した則国が砥石城で討ち死にしたと記載されています。その後、天文（1532～1555）末頃に宇喜多大和守が城主であったことが『馬場家記』（馬場家の奉公書など）より判明しています。『馬場家記』では、浦上政宗と宗景の争いに際して、兄政宗方に付いていた大和守を、弟宗景は宇喜多直家に命じて攻撃させ、弘治２（1556）年頃に大和守を滅ぼしたとされます。

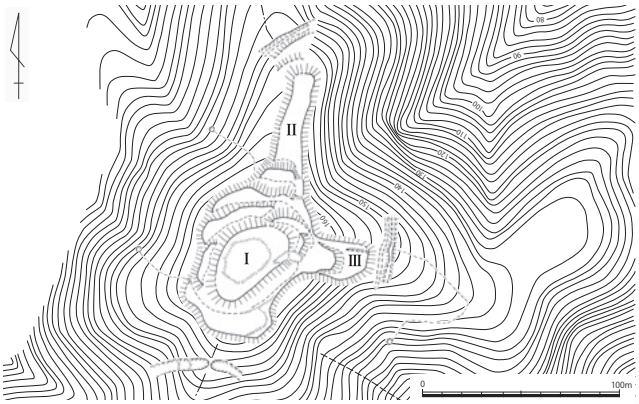
北西から

17 高取山城跡（瀬戸内市邑久町東谷・岡山市東区長沼）

岡山市と瀬戸内市の境に立地し、千町川左岸に立地する山塊から北方向に延びる標高165mの尾根頂部に位置します。「本丸」と呼ばれる曲輪Ⅰの主郭は不整な楕円形です。「二の丸」と呼ばれる曲輪Ⅱは、曲輪Ⅰから北方向に延びる主尾根に沿って築いており、長方形です。また、「三の丸」と呼ばれる曲輪Ⅲは、曲輪Ⅰから東方向に延びる支尾根に配置しています。また、曲輪Ⅱの北側と曲輪Ⅲの東側には、深さ約４mの堀切を設けており、切岸も急峻です。曲輪Ⅰの南側にも堀切がみられます。

この城は『日本城郭大系 第13巻 広島・岡山』・『邑久町史 考古編』に従うと「高取山城」ですが、江戸時代の地誌類や文献によっては名称や位置が異なります。

なお、同時代の記録では確認できませんが、江戸時代に書かれた軍記物語である『備前軍記』には、宇喜多能家が砥石城に居城していたところ、天文３（1534）年に高取山城主の島村氏が砥石城を急襲し、砥石城は落城したと記されています。



高取山城跡縄張り図
（岡山県教育委員会 2020に加筆）

北から

縄張り図の説明

縄張り

城の基本設計で、曲輪、堀、土塁、出入口（虎口）などの遺構の配置や組み合わせのこと。

曲輪・郭

尾根や斜面を造成してつくった平坦地。中心となるものを主郭または本曲輪（後の本丸）という。このほか、主郭を取り巻く細長い帯曲輪、主郭から下った場所に設けられた腰曲輪がある。

切岸

敵の侵入をはばむため、曲輪周囲を人工的に切り崩した急崖。

堀

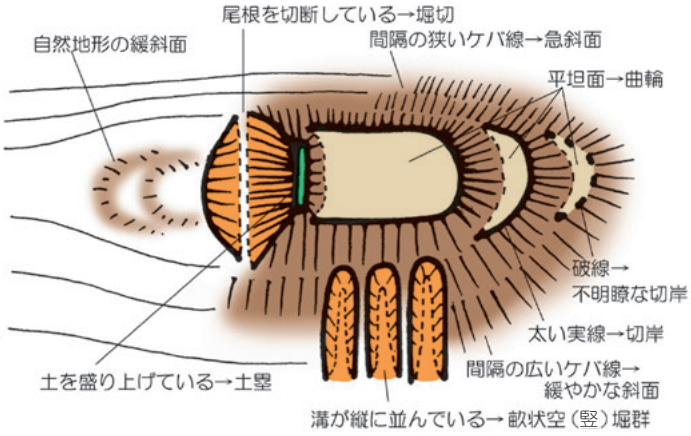
城の防衛施設で、尾根を断ち切るように掘られた堀切、山の斜面に沿って掘られた竪堀、竪堀を連続して並べた畝状空堀群、曲輪の周りを取り巻くように掘られた横堀がある。

土塁

郭や堀の縁辺に土を盛ってつくった防衛用の高まり。

出入口・虎口

城や曲輪の出入口。直線的、のぼり坂、屈曲した通路や門の前後の広場を組み合わせたものがある。



縄張り図凡例
（岡山県古代吉備文化財センター 2025）

●探訪時の注意事項

城館跡の多くは私有地です。場所や季節によっては立入りが制限されているところもあります。また、住宅地と隣接しているので、無断侵入や迷惑行為は慎んでください。見学に際してはマナーを守って行動しましょう。野外活動に適した服装を心がけ、野生動物や道迷いなど安全に注意しましょう。城館跡は貴重な文化財です。大切にしましょう。

●主要参考文献

・岡山県教育委員会 2020『岡山県中世城館跡総合調査報告書 第1冊－備前編－』
・邑久町史編纂委員会編 2009『邑久町史 通史編』・2006『邑久町史 考古編』・2005『邑久町史 地区誌編』瀬戸内市
・牛窓町史編纂委員会編 2001『牛窓町史 通史編』牛窓町
・長船町史編纂委員会編 2001『長船町史 通史編』・1998『長船町史 史料編（上）考古・古代・中世』長船町
・岡山県史編纂委員会編 1989『岡山県史 第4巻 中世Ⅰ』・1991『岡山県史 第5巻 中世Ⅱ』岡山県
・葛原克人ほか編 1980『日本城郭大系 第13巻 広島・岡山』新人物往来社
・邑久町役場編 1972『邑久町史』邑久町
・小林久磨雄編 1953『改訂 邑久郡史 上巻』邑久郡史刊行会
・吉備群書集成刊行会編 1921『吉備群書集成 第1輯』・1922『吉備群書集成 第3輯』吉備群書集成刊行会
・岡山県古代吉備文化財センター 2025「岡山の戦国争乱と城 第2巻「天神山城の戦い」と城」
・岡山県古代吉備文化財センター 2015「再発見!ふるさとの山城 岡山県中世城館跡総合調査 攻略!おかやまの中世城館 第一巻（備前国東部編）」

●協力　岡山県古代吉備文化財センター
瀬戸内市

瀬戸内市の中世城館跡

発行日　2025 年 3 月
編集・発行　公益財団法人 瀬戸内市歴史まちづくり財団
岡山県瀬戸内市牛窓町長浜 5092　TEL 0869-24-7788　FAX 0869-24-7008